

周南コンビナート脱炭素推進協議会設立総会及び第1回協議会 議事要旨

開催要領

日 時 令和4年1月6日(木) 16:00～17:10

場 所 周南市役所 多目的室(本庁舎1階) ※WEB併用

出席者 【構成員】(敬称略)

藤井 律子 周南市長

辻 佳子 公益社団法人化学工学会副会長

東京大学環境安全研究センター教授

板垣 秀人 出光興産株式会社 徳山事業所 管理課長 ※代理出席

田代 克志 東ソー株式会社 代表取締役 専務執行役員 南陽事業所 所長

奥野 康 株式会社トクヤマ 執行役員 徳山製造所 所長

渋谷 智啓 日本ゼオン株式会社 徳山工場 工場長

【オブザーバー】(敬称略)

吉村 一元 経済産業省 製造産業局 素材産業課長

酒井 貴司 国土交通省中国地方整備局 宇部港湾・空港整備事務所長

福島 健彦 環境省 大臣官房 総合政策課長(総合環境政策統括官グループ)

平野 展康 山口県産業戦略部長

稲葉 和也 周南市水素利活用協議会 会長

山口大学 大学院技術経営研究科教授

福代 和宏 周南市木質バイオマス材利活用推進協議会 会長

山口大学 大学院技術経営研究科教授

【補佐人】(敬称略)

石戸 利典 公益社団法人化学工学会前会長

株式会社 IHI エグゼクティブ・フェロー

阿尻 雅文 公益社団法人化学工学会元会長

東北大学材料科学高等研究所教授

大塚 雄一郎 出光興産株式会社 徳山事業所 管理課

稲毛 康二 東ソー株式会社 南陽事業所 副事業所長

土谷 和寛 東ソー株式会社 事業所長室 技術管理グループ

井上 裕司 株式会社トクヤマ カーボンニュートラル戦略室 室長

藤村 佳樹 日本ゼオン株式会社 徳山工場

谷地 義秀 日本ゼオン株式会社

本社 カーボンニュートラル推進室 室長

【事務局および関係課】

佐田 邦男	周南市副市長
山本 敏明	周南市産業振興部長
荒美 雅丈	周南市産業振興部 商工振興課長
吉村 渉	周南市産業振興部 商工振興課 新産業推進室長
山根 正敬	周南市産業振興部 商工振興課 新産業推進室長補佐
十代 帆乃香	周南市産業振興部 商工振興課 新産業推進室
川口 洋司	周南市企画部長
河本 浩	周南市環境生活部長
山田 将之	周南市環境生活部 環境政策課長

議事次第

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 設立総会
 - (1) 協議会規約（案）
 - (2) 監事選出（案）
 - (3) 事業計画（案）
 - (4) 予算（案）
4. 第1回協議会
 - (1) 周南コンビナートの脱炭素化に向けた取組について（事務局）
 - (2) 地域連携カーボンニュートラル推進の取組について（公益社団法人化学工学会）
 - (3) 脱炭素にかかる国の政策について（経済産業省、国土交通省、環境省）
 - (4) 意見交換
5. 閉会
 - ＜配布資料＞
 - 資料1：次第
 - 資料2：参加団体名簿
 - 資料3：参加者名簿
 - 資料4：設立総会資料
 - 資料5：周南コンビナートの脱炭素化に向けた取組について

議事録

1. 開会

(司会)

それでは、ただいまから、「周南コンビナート脱炭素推進協議会設立総会」を開催いたします。

本日は新年早々の大変ご多用のところ、御出席を賜り、誠にありがとうございます。

私は、本日、進行を務めます、周南市商工振興課長の荒美と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、本日は、次第のとおり、設立総会の後、引き続き、第1回協議会を開催し、時間は1時間程度の予定です。

本来であれば、御出席の皆様をご紹介するところでございますが、時間の関係上、配付しております出席者名簿と配席図をもちまして、ご紹介に代えさせていただきます。

なお、本日の会議につきましては、次第4. 議事(3)までの部分公開といたします。

それでは、開会にあたり、周南市長 藤井律子より、ご挨拶申し上げます。

2. 市長あいさつ

(市長)

周南市長の藤井律子でございます。

皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、平素より、本市の産業振興をはじめ、まちづくりに格別の御支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

「港とコンビナート」は、言うまでもなく、本市の「なくてはならない財産」でありますし、徳山下松港は、来月10日に開港100周年という大きな節目を迎えます。

さらには、2050年カーボンニュートラルに向けて、西日本エリアのエネルギー供給拠点となるカーボンニュートラルポートを目指した取り組みも進められているところです。

現在、市では、周南コンビナートとともに、地域資源の水素、木質バイオマスの利活用の取組を進めておりますが、産業の振興と脱炭素の両立は、なかなか難しく、対応すべき課題も多くございます。

そうした中、化学工学会様が周南コンビナートを地域連携カーボンニュートラル推進プロジェクトのモデルケースとして選定してくださいました。

私は、このことを大きなチャンスとしてとらえ、これを契機に、周南コンビナートの将来構想を描き、社会実装につなげる周南モデルを構築したいと考え、この度の協議会の設立を呼び掛けさせていただいたところでございます。

今年は、開港100周年とともに、脱炭素に向けた新たなスタートの年となります。

周南市から、そして、周南コンビナートから脱炭素の変革を起こす。その覚悟と意気込みで周南市が旗振り役となり、取り組みを進めてまいりますので、皆様のお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

3. 設立総会

(司会)

ありがとうございました。

それでは、次第3. 設立総会に入ります。

まず、周南コンビナート脱炭素推進協議会の設立趣旨等につきまして、事務局より説明します。

(事務局)

それでは、周南コンビナート脱炭素推進協議会の設立に至った経緯について御説明いたします。資料4の1ページをお願いします。

令和2年10月に国が2050年カーボンニュートラルを表明して以降、皆様ご承知のとおり、脱炭素の動きが加速しています。

山口県では、カーボンニュートラル実現に向けたやまぐちコンビナート低炭素化構想を令和4年度中に策定するための検討が進められています。

また、徳山下松港では、現在、カーボンニュートラルポート形成に向けた検討が行われ、周南コンビナート企業においても、バイオマス発電所の新設、既存設備における混焼率向上の検討など、様々な取組が行われています。

そうした中、化学工学会においては、昨年2月に地域連携カーボンニュートラル推進委員会を発足され、地域の産業連携によるCO2削減のモデルケースとして周南コンビナートを選定されました。

また、周南市においても、副生水素や木質バイオマスの利活用に取り組むとともに、一昨年に策定した「水素・木質バイオマスによる脱炭素・低炭素コンビナート構想案」を叩き台として、企業や関係機関との意見交換を行ってまいりました。

その中で、2050年カーボンニュートラル実現に向けた、今後の周南コンビナートの方向性として、改めて「コンビナート連携」「産業連携」「地域連携」という視点からのアプローチが重要と考え、周南市が旗振り役となり、周南コンビナートと化学工学会が連携した協議会設立について、皆様と協議・検討を進めて参り、本日、周南コンビナート脱炭素推進協議会の設立総会に至りました。

本協議会は、現行の設備、産業インフラ等、最大限の活用を図りつつ、脱炭素に向けた社会実装の推進に向けて、周南コンビナートのグランドデザイン、バックキャストによるロードマップの策定、実証事業などを進め、周南コンビナートの産業競争力の維持・強化と、脱炭素化の両立を目指すものであります。

以上、簡単ではございますが、協議会設立の経緯についての御説明でした。

3. 設立総会（1）

(司会)

続きまして、協議会の設立に向け、（1）協議会規約（案）につきまして、事務局から説明させていただきます。

(事務局)

周南コンビナート脱炭素推進協議会規約（案）について、ご説明します。資料 4 の 2 ページをお願いします。

第 1 条は、協議会の名称を定める規定です。

第 2 条は、協議会の目的として、周南コンビナートの産業競争力の維持・強化と脱炭素化の推進に取り組むことを定めています。

第 3 条は、本協議会の事業を定めるものです。2050 年カーボンニュートラルの実現に向けて、周南コンビナートの産業発展と、脱炭素化を図るための課題解決に向けた方策に関することとしております。

第 4 条は、会の構成でございます。これは 4 ページの別表により定めております。

第 5 条は、役員の規定です。会長 1 人、副会長 1 人、幹事 2 人とし、会長を周南市長、副会長を化学工学会会長又はその指名する者、幹事については、総会で選任することを定めています。

第 6 条は、総会について、総会の議長や書面決議に関することなどを定めています。

3 ページ、第 7 条は、ワーキンググループの設置について、第 8 条は、本協議会に置くオブザーバーについて、第 9 条は、構成員の代理人及び補佐人の会議出席について、定めるものです。

第 10 条は、会議は公開としますが、企業の技術上、経営上の情報など、不開示情報が含まれるときは、非公開とすることを定めています。

第 11 条は、秘密保持に係る条項です。公開される資料等を除き、協議会で知り得た情報を外部に漏らし、又は無断で使用してはならないことを定めています。

資料 4 ページ、第 12 条は事業年度について、第 13 条は事務局について、第 14 条は、規約のほか、会の運営に必要な事項は、別に定めることを規定しています。

以上、協議会規約案でございます。よろしくお願いいたします。

(司会)

ただ今の説明につきまして、御意見・御質問等がございましたらお願い致します。

それでは、特にご質問等ないようですので、協議会規約（案）について、ご承認ということによろしいでしょうか。

～異議なし～

御異議ございませんので、協議会規約（案）につきましては、原案のとおり承認されました。

ただいまをもちまして、「周南コンビナート脱炭素推進協議会」が設立され、規約第 5 条第 2 項、第 3 項により、会長は、周南市長・藤井律子、副会長は、公益社団法人化学工学会の辻佳子様と決定しました。

それでは、会長と副会長からご挨拶をいただきたいと存じます。

最初に、会長の藤井市長、お願いいたします。

(会長)

ただいまご承認いただき、会長に就任いたしました、藤井でございます。

周南コンビナート脱炭素推進協議会設立にご賛同いただきまして、誠にありがとうございます。

国・県の政策とも連携しながら、周南コンビナートの産業競争力の維持と脱炭素化の両立に向け、有意義な会議となるよう全力で頑張ってまいりたいと思いますので、皆様方のご指導、ご協力の程よろしくお願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。

続いて、副会長の辻様、お願いいたします。

(副会長)

化学工学会の会長から指名を受け、化学工学会の副会長を仰せつかっております、東京大学の辻と申します。

この度この協議会の副会長を拝命いたしました、よろしくお願いいたします。

本日を迎えられたことを嬉しく思うと同時に、わくわくしています。

先ほど藤井市長からのお話もあり、身の引き締まる思いでございます。

カーボンニュートラルは、解決しなければいけない地球規模の課題であると同時に、周南や日本にとってのビックチャンスであると考えています。

それぞれのステークホルダーが、自分自身の課題として捉えて考えて、工学モデル、ビジネスモデルを構築し、さらに自己的な地域産業連携、地域コミュニティ連携を具現化して、新たな産学官連携の形を作り出していきたいと思っています。

経済産業省、環境省、国交省、山口県からも御出席いただいておりますけれども、国や県のアドバイスをいただきながら、周南からほかの地域へ、もっと言うならば周南から世界へ発信できるように、学会の英知を集結させて、みなさんとともに全力で取り組んでいきたいと思っています。

よろしくお願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。

なお、規約第6条第2項「総会の議長は会長をもってこれに充てる」とございますので、ここからの進行は会長である藤井市長にお願いいたします。

3. 設立総会（2）

(会長)

それでは、総会を進行します。引き続き、（2）監事選出（案）に入ります。事務局より、説明をお願いします。

(事務局)

監事選出について御説明いたします。資料5ページをお願いします。

ご承認いただきました規約「第5条第7項」で、「幹事は、構成員の中から総会において選任する」とあります。

このことについて、事務局からは、出光興産株式会社執行役員徳山事業所長の三品鉄路様、東ソー株式会社代表取締役専務執行役員南陽事業所長の田代克志様を提案させていただきます。よろしくお願いいたします。

(会長)

ただ今の説明につきまして、御意見等がございましたらお願いします。

それでは、特に御意見等ないようですので、監事選出について、ご承認ということでよろしいでしょうか。

～異議なし～

御異議ございませんので、監事選出につきましては、原案のとおり承認されました。
出光興産株式会社三品鉄路様、東ソー株式会社田代克志様、よろしくお願い致します。

3. 設立総会（3）（4）

(会長)

続きまして、（3）事業計画（案）と（4）予算（案）につきましては、一括で事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、3、事業計画案について、及び4、予算案について、続けてご説明いたします。資料は6ページでございます。

3の事業計画案です。1、設立総会、また、このあと予定しております、第1回の総会ののち、協議会の主な取組は周南コンビナートの将来像、グランドデザインの策定を進めたいと考えております。

3として、その策定に向けたワーキンググループを、2月から3月に予定、また、上に戻っていただき、令和4年3月に第2回総会として、令和4年度事業計画及び予算案の審議、グランドデザイン策定に向けた検討状況について、報告を予定したいと考えております。

次に4、予算案についてでございます。令和3年度周南コンビナート脱炭素推進協議会収支予算書（案）といたしまして、収入の部、交付金62万3千円、これは周南市からの交付金でございます。支出の部、協議会運営経費として、協議会出席等に要する旅費及び謝金、消耗品、合計で62万3千円を計上しております。説明は以上でございます。

よろしくお願いいたします。

(会長)

ただ今の説明につきまして、御意見・御質問等がございましたらお願い致します。

それでは、特にご質問等ないようですので、事業計画（案）、予算（案）について、ご承認ということでよろしいでしょうか。

～異議なし～

御異議ございませんので、事業計画（案）、予算（案）につきましては、原案のとおり承認されました。

以上をもちまして、設立総会を終わります。円滑な進行にご協力をいただき、ありがとうございました。

引き続き、第1回協議会に入ります。

4. 議事（1）周南コンビナート脱炭素化に向けた取組について

(会長)

それでは、「議事（1）周南コンビナート脱炭素化に向けた取組について」事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは周南コンビナートの脱炭素化に向けた取組として、今後の進め方を、資料のスケジュールイメージにより御説明します。

最初の主な取組はグランドデザインの策定です。2021年の欄、各社ヒアリング、ケーススタディを、化学工学会を中心に進め、右側、グランドデザインワーキンググループによる策定の検討、2022年度のグランドデザイン策定を目指します。

そして、グランドデザインから、左矢印、バックキャストによるロードマップの策定。

2023年度以降のコンソーシアム設立、社会実装事業のスタートを目指します。

この取組は、資料の上段に示してあります、2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略、国土交通グリーンチャレンジ、地域脱炭素ロードマップなどの、国の政策との整合。

また、資料の左下、徳山下松港カーボンニュートラルポート検討会、山口県コンビナート連携会議などの施策とも整合を図り、実践的な取り組みとなるよう進めてまいりたいと考えています。

当面の活動となるグランドデザインの策定に向けて、各社へのヒアリングなどが進み、ワーキンググループの日程、内容等、決まりましたら、皆様にお知らせしますので、御協力のほどお願い申し上げます。

以上、今後の取組について事務局からの説明でございました。

(会長)

ただ今、事務局から説明のありました取組について、御質問等がございましたら、お

願います。

それでは、特に御質問等ないようですので、次の議事に入ります。

4. 議事（２）地域連携カーボンニュートラル推進の取組について

（会長）

続きまして、議事（２）地域連携カーボンニュートラル推進の取組についてです。

ここでは、公益社団法人化学工学会様にご説明をいただきたいと思います。化学工学会様、よろしくお願いします。

（副会長）

それでは資料に基づいてお話しします。

脱炭素、カーボンニュートラルを考えるときに、産業から出ているCO₂の排出量が大変多いですが、コンビナートの中の主要な位置を占めている化学産業はカーボンを含む素材の提供者であると同時に、温室効果ガスの排出者であることが言えるが、私たちは地球温暖化という社会課題の解決者にこれからなっていく中で、カーボンニュートラルの実現というのは産業構造や社会構造が大きく変わっていくことになります。

その時に産業や地域を一つのシステムとして捉え、いくつかの要素の結合として全体を最適化していきます。

ある領域で最適解が得られない場合には、そのバウンダリーを広げて最適解を求めていくこととします。

次のページです。これが、周南地区をケーススタディとした、CO₂フリー社会実践のプロジェクトの中身ですが、目的は、地域産業連携、コミュニティ連携によるCO₂削減を目指すプランを策定して、社会実装することを目的にしています。

数値的な目標から言うと、2030年くらいに半減させて、2050年にはカーボンニュートラル、その先にはカーボンネガティブとするようなグランドデザインを作成することが大事になります。

今までもコンビナートは様々な連携プロジェクトをしていますが、それは他のコンビナートとの競争力強化というところでやってきましたが、今回は環境に対する負荷をなくすることが目的となります。

それにあたって石油・化学産業の企業が連携するだけではなく、他産業との連携、それからエネルギーに関しては脱炭素、それから後半側の素材のところに関しては、炭素循環を考えてヒートバランス、それからマスバランス、それから運動エネルギーを全部解いて、最適解を求めていきます。

周南地区は特徴のあるエリアで、有機化学、無機化学、セメント、ファインケミカルなどいろんなものが入っているので、この地域でグランドデザインを作成して実装することによって、他の地域への波及効果も狙っていきます。

次のページで、実現のために大事なポイントが2つあります。

1つ目が、最初に2050年の未来社会をデザインする。それに必要なプロセスや制度設計というものを考えていって、最後に社会実装していきます。

これは現在の化学産業の基本プロセスは30年、40年前に成立したものだが、それとは

全く異なり、新たなプロセスの開発が当然必要です。

未来社会をデザインするときに大事なポイントが2つ目に記載していますが、過去、産業革命以降、経済的な豊かさを追求してきたが、そこから公害問題があり、経済と環境の両立が言われてきたが、これから先は循環型社会に加えて人と社会のウェルビーイング、心の豊かさの追求までを含めた持続可能な社会が大事になります。

次のページが周南地区のカーボンサイクルのイメージで、緑が地域のカーボンのサイクルのイメージです。これはイメージ図でしかなくて、これからこれに数値を入れていくことになります。緑がカーボン、青の部分は地域の水素、黒い点の下部分が地域コミュニティの部分です。これをとにかくきっちり作っていき、必要な技術を開発していくことになります。

次のページの化学産業の具体的な検討も一例でしかないが、例えば排出しているCO₂と水素から適切なオレフィンを作る、あるいは、廃棄物が有価物になるので、バイオマスからオレフィンを作るというようなこと。これは、一次産業、二次産業、三次産業が連携していく必要があると考えています。

それから、もう1つが次のページで、これは産業連携の1つの例ですが、周南地区にはセメント産業と化学産業の両方が存在します。

今はそれぞれがインディペンデントにありますが、セメント製造は石灰石、CaCO₃から作るので、マテリアルとしてのCO₂が必ず出てしまうが、そのCO₂の中に入っているカーボンの量と、日本全体を考えたとき、化学原料として輸入しているナフサのカーボンの量を考えたときに、セメントから出ているCO₂の方がカーボンの量が多いので、私達はこれからナフサ代替や脱ナフサに向かっていかないといけないので、セメントから出てくるCO₂をうまく利活用するとか、あるいは化成品側も廃プラスチックやバイオマスからオレフィンやメタノールを返しても返さなくてもどちらでもよいが、そうしたことをしてぐるぐる回していく必要があります。

次のページで、熱もたくさんあるわけで、余っているところから足りないところに回して行って、最適解を求めていきます。

そのときに例えば山口県の林業や、地域コミュニティ、いわゆる民生の社会とも連携していく必要もあるし、最後に決めるのはそれぞれのステークホルダーが自分自身の問題として考える必要があるので、市民も一緒になってこの問題を解決していくことが必要になります。

次のページ、今回は周南が時代の先頭に立って、基盤強化と地域協調の仕組みを作っていくわけですが、あらゆる英知を集結する、ないものは開発する、既存のあるもの、使っていないけど今あるものをどんどん利用していき、新しい形の産学官連携を推進していきます。

そうした中で、2050年のカーボンニュートラルに向けて、社会変革、産業変革をして国際的な課題に対して日本が世界をリードする。加えて国内の産業の活性化が大事になるので、それを目指していくことになります。

そうした中で周南地区に実装して、他の地域やほかの産業に技術と方法論を展開していくということを考えています。

周南という具体的な例で、それぞれの地域で最適解は違ってくる訳で、周南の最も適

している解と一緒に考えていくということになります。

最後のページ、2050 年に向けて最初に申し上げましたように、エネルギーの部分に関しては脱炭素、化学産業の部分は炭素循環をする、そのときにそれを地域社会まで含めて資源を循環していくという考え方を進めて行こうと考えています。

(会長)

ありがとうございました。ただ今の化学工学会様からのご説明に関しまして、御質問等がございましたら、お願いします。

それでは、特にご質問等ないようですので、次に進みます。

4. 議事（3）脱炭素にかかる国の政策について

続きまして、議事（3）脱炭素にかかる国の政策についてです。

ここでは、脱炭素にかかる国の政策について、本日ご出席を賜りましたオブザーバーの皆様にお伺いしたいと存じます。本協議会への激励や期待なども含めまして、ご発言いただければ幸いです。

まずは、経済産業省製造産業局素材産業課長の吉村様、お願い致します。

(経済産業省)

素材産業課長の吉村と申します。

まず、申し上げたいのは周南コンビナート脱炭素推進協議会、藤井会長のリーダーシップのもと設立されたことをお慶び申し上げます。あわせてこのような光栄な場にお招きいただいたことも御礼を申し上げます。

カーボンニュートラルへの対応ということになってまいりますと、これまで各地域で行政と産業が長い年月をかけて培ってきた、ある種の総合芸術ともいえるような生産体制を、CO₂の観点からもう一度みんなで設計をし直して、組みなおす必要があると思っています。

みんなの協力なくしてはできませんし、その分難しいことも理解していますが、協議会を軸にして進んでいっていただきたいと思います。

経産省としても、できる限りのサポートをしていきたいと思っています。

経産省では、2030 年 46%の削減ということに向けて、素材の産業を担当している立場からすると、製造プロセスの改革を進めるということで、グリーンイノベーション基金、いわゆる 2 兆円基金と言われていますが、これを使って、鉄や化学の製造プロセスの改革について 10 年間の研究開発を進めていくということをやっています。

足元では、10 年と言わず、石炭火力の発電所の燃料をどう転換していくかということも大事な課題となってくるので、先の臨時国会で成立した補正予算において、実際にどういう燃料を使っていくことが効果的かを調査する予算を用意しました。配布した資料を後で確認してください。

さらに、化石燃料への逆風もありますが、日本はやはり資源のない国でもあるので、トランジションを進めながら、2050 年に向かうのが大事であると思っています。

そういった意味で、CO₂をいきなりゼロにするものではないですが、必要な省エネ

投資はやるべきですし、トランジションに必要な技術は後押ししたいので、そうした技術に対するファイナンスがしっかり進むように、ファイナンスのロードマップも作っていきたいと思います。今既に、鉄、化学については作り、今度はセメントの世界もしっかり作っていきたいと思っているので、そうした施策を活用しながらサポートしていきたいと思います。

岸田総理からクリーンエネルギー戦略をつくるべしということで、資源エネルギー庁とも相談をしながら製造産業において、どういうことが必要になるのか、あるいはどんなエネルギー供給を実現すれば製造業がしっかり国内でやっていけるかということを今後審議会等の場で議論していくこととしていますので、そうした中で施策を引き続き充実していきたいと思っています。

周南地域では、まさに具体的な検討を進めていただいているところが素晴らしいと思います。全国に先駆けて具体的な検討を進め、この協議会を通じて皆様方と一緒にカーボンニュートラルへの対応、さらに地域の雇用を確保しながらの燃料の転換にしっかり取り組んでいただいて、全国へ先行する取組の発信をしていただければと期待しています。

リサイクルの推進も今後必要になってくると思います。

是非、参加企業の方も含めて、藤井会長・辻副会長のリーダーシップの下、具体的な取組・検討を進めていただければ私どももありがたいと考えています。

惜しみなく応援させていただきますので、引き続きよろしくお願いいたします。

(会長)

ありがとうございました。

続きまして、国土交通省中国地方整備局宇部港湾・空港整備事務所長の酒井様、お願い致します。

(国土交通省)

本日はお声掛けいただきありがとうございます。

国土交通省中国地方整備局宇部港湾・空港整備事務所の酒井と申します。

まず、事務局の周南市におかれましては、徳山下松港の整備促進、カーボンニュートラルポート形成に向けた取組へのご理解、またブルーカーボンにおいては、自治体としては全国初となる J ブルークレジットの申請、認証などを進めていただいているとともに、そのほか本日お集まりの皆様におかれましても、様々な場で港湾行政の推進にご理解とご協力をいただいていることをお礼申し上げます。

さて、脱炭素に係る政策等でございますが、港湾地域は、脱炭素エネルギーである水素や燃料アンモニア等の輸入拠点となるとともに、これらの活用によるCO₂の削減の余地も非常に大きい地域と考えています。

このため、港湾地域において、脱炭素化に向けた先導的な取組を集中的に行うことは、我が国の2050年のカーボンニュートラルの実現に効果的、効率的であると考えています。

国土交通省港湾局では、水素、燃料アンモニア等の大量、安定、安価な輸入、貯蔵を可能にする受け入れ環境の整備や、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化、集積する臨

海部産業との連携等を通じてカーボンニュートラルポートを構築することを目指し、カーボンニュートラルポート形成に向けた検討会を開催しており、全国各港湾におけるカーボンニュートラルポート形成の取組を促すための、カーボンニュートラルポート形成計画策定マニュアルをこの年末に作成しています。

一方で、ここ徳山下松港においても、中国地方整備局において令和3年の2月から、徳山下松港カーボンニュートラルポート検討会を開催しており、将来の水素やアンモニア等の大量輸送、大量利用を見据え、当面の石炭等のベースエネルギーやバイオマスの取扱の増加等も視野に入れ、エネルギーミックス、およびCCUSの取組推進によるカーボンニュートラルの実現、また2030年、2050年を見据えて、西日本のエネルギー供給拠点港としての進化を目指しています。この点、本日の協議会での議論とも連携しながら、より一層検討を深めていけることを期待しています。本日はよろしくお願いいたします。

(会長)

ありがとうございました。

最後に、環境省大臣官房総合政策課長の福島様、お願い致します。

(環境省)

環境省の福島でございます。本日はお招きいただき、ありがとうございます。

環境省としても、カーボンニュートラルに向けて、関係省庁と連携しながら全力で取り組むと考えています。

既に報道でご覧になっているかもしれませんが、一昨日の岸田総理の年頭会見でも、炭素中立型に経済社会全体を変革していくために、関係各省で総力をあげて取り組むと総理はおっしゃっておられます。

炭素中立型に経済社会全体が変革していくといった場合に、炭素中立型の産業構造への変換、これは先程お話しがありました経済産業省や国土交通省でそれぞれの担当分野で進められていると思いますが、環境省は地域と暮らしにおける脱炭素化というところに力を入れて担当しています。

周南市の取組みにおいても、コンビナート周辺の、例えば公共施設や一般の住宅といった、地域と暮らしに密接にかかわる部分で環境省の出番になると思っています。

総理のご指示もいただきながら、環境省としては、来年度予算として、地方自治体への交付金、官民ファンドを用意しており、今後公募等を始めていきますが、そうした仕組みも活用しながら周南市の取組、特に地域と暮らしにフォーカスを置きながら、環境省としてもお手伝いできる場面があるのではないかと考えています。

(会長)

ありがとうございました。

本協議会では、国の政策とも連携した取組を推進していきたいと考えておりますので、引き続きの御支援をよろしくお願いいたします。

ここで報道関係者の皆様にご覧がございます。事前にご案内させて頂きましたとおり、本協議会の撮影・取材はここまでとさせていただきます。

大変申し訳ありませんが、ご協力をお願いします。

4. 議事（4）意見交換

～非公開～

5. 閉会

（司会）

皆様、ありがとうございました。

ここで事務局より、今後の進め方についてご案内いたします。

今後、グランドデザインの策定に向け、ワーキンググループを設置したいと考えております。

日程等につきましては、追ってご連絡をさせていただきます。

最後に、本日は、皆様のご協力のもと、協議会の設立及び協議会の開催ができましたことに心より感謝申し上げます。

今後も皆様の強み、そして、英知を結集し、連携して何ができるかという視点で、議論を進めてまいりたいと考えておりますので、引き続き、皆様のご協力をお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

以上をもちまして、「第1回周南コンビナート脱炭素推進協議会」を終了いたします。